

## 【授業科目】音楽療法

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー	教職員への授業公開
松田 真谷子	1年次後期	選択	1	15	講義	巻末掲載	可
授業概要 (内容と進め方)	<p>音楽療法の定義「音楽療法とは、音楽のもつ生理的、心理的、社会的働きを用いて、心身の障害の回復、機能の維持改善、生活の質の向上、行動の変容などに向けて、音楽を意図的、計画的に使用すること」を受け、医療を学ぶ学生として何を考え、何を実践していかねばならないか、共に考える。同時に世界の名曲と作曲家を訪ねて、音楽のよこび・音楽のたのしさを学ぶ。それらの音楽を医療域音楽と考えたとき、人の心と体とどのようにかかわってくるのか、音楽療法側面から考える。</p> <p>提出された課題については講義内で解説する。</p>						
授業の位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー③「人間の健康を環境との関係において捉え、地域社会の生活者の視点から医療技術援助ができる。」の達成に寄与している。</p>						
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 音楽療法における一般的な知識を学ぶことができる。</li> <li>2. 治療現場で役立つことができる知識を学ぶことができる。</li> <li>3. 世界の名曲と大作曲家について学び楽しむことができる。</li> </ol>						
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	<p>配布資料を読んで予習・復習すること (1時間)          必要に応じて専門用語の意味などを調べ理解しておくこと (30分)          多くのジャンルの音楽を常に聴くこと (1時間30分)          課題に対するプレゼンテーションの準備をすること (1時間)</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間 (2単位15回科目の場合: 予習+復習4時間/1回) (1単位15回科目の場合: 予習+復習1時間/1回) (1単位8回科目の場合: 予習+復習4時間/1回) を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>						
授業計画	<p>第1回 音楽療法概論: 音楽療法における音楽の役割、音楽療法の対象と目的について考える</p> <p>第2回 音楽療法の歴史と現状: 歴史の中の名音楽療法士、日本の音楽療法について考える          ヴィヴァルディを聴く</p> <p>第3回 音楽療法の基礎知識①: 音楽の生理的・心理的作用について考える          ヘンデル・J.S. バッハを聴く</p> <p>第4回 音楽療法の基礎知識②: 同質の原理、異質への転導、感動と自己訂正について考える          モーツァルトを聴く</p> <p>第5回 音楽療法による治療の実際①: 個人・集団に対する音楽療法について考える          ベートーヴェンを聴く</p> <p>第6回 音楽療法による治療の実際②: 老人施設・ホスピスでの音楽療法について考える          童謡・唱歌を聴く</p> <p>第7回 サウンドスケープ: 音環境について考える</p> <p>第8回 音楽療法実技: 楽器演奏・歌唱・ボディパーカッションを行う</p>						全て松田
評価方法 評価基準	<p>授業中の質疑応答 (50%) 及び提示されるレポート課題発表 (50%) を合算し、評価する。</p>						
教科書	指定しない			参考書等	<p>資料を授業時に配布する。          授業内で適宜紹介していく。</p>		
学生へのメッセージ	<p>各種ジャンルの多くの音楽・音に耳を傾けることが望ましい。</p>						